

日本の伝統行事と住宅のしつらい

Traditional events in Japan and interior of housing

岩間香¹・平田陽子²

摂南大学では2012年度にPBL授業の一環として、学生が家庭で飾らなくなった雛人形を集め大規模な雛壇を製作するという活動を行った。その折、予想を上回る数の雛人形が集まり、雛人形を持っていても飾らない家が増えている実態が明らかになった。その原因に、家族構成や居住環境の時代的な変化があることが推測された。そこで「しつらい」を伴う伝統行事の実態について、居住環境の異なる地域でアンケート調査を行い、比較考察することにした。調査の目的は下記の通りである。

- ① 伝統的な行事が現代の住宅においていかに行われているかを明らかにする。
- ② 家庭内で行われてきた行事に必要な「場」は何かを明らかにする。
- ③ 伝統行事とくに雛飾りの今後の在り方を考察する。

1. 調査方法

1-1 アンケート内容

アンケートの内容については、家の中で季節の変化や年中行事によりしつらいを変更しているか、とくに大がかりなしつらい変更を要する雛祭りや五月人形などの節句飾りを行っているか、行っていない場合はその理由などについて質問し、住宅の広さ・築年数や家族構成などとともに調査した。アンケートの細かい内容は本論文末に付けてい

	配布数	回答数	回収率
N地区	267	56	21.0%
駅前TM	462	92	19.9%
M公団	514	47	9.1%
合計	729	148	15.7%

表1 アンケート回収率

る。最も回収率の高いN地区で21.0%、低いM公団で9.1%、全体で15.7%の回収率であった。回答数が異なるので、それぞれ各項目の回収率を比較していくことにする。

1-2 調査地区

寝屋川市内において異なる居住環境の3地区を選出した。①伝統的な一戸建て家屋の存在する地区、②最新のタワーマンション、③築50年経ち長期間の居住が予想される公団住宅を、それぞれ2～5地区ずつリストアップした。ついで現地調査を行い、1～3地区に絞り、市役所で自治会長の連絡先情報を得て自治会長に調査の承諾をとった。最終的に承諾を得られた3地区（4自治会）において、アンケート用紙を返信封筒等とともに郵便受けに投函した。

¹ 摂南大学外国語学部外国語学科教授

² 摂南大学理工学部住環境デザイン学科教授

各地区はそれぞれ下記の特徴をもっている。

① N地区

東高野街道と京街道を東西に結ぶ山根街道に沿った一戸建て住宅地域である。集落の中心に浄土真宗本願寺派と浄土宗の二つの寺院があり、街道に面して土塀や長屋門が続く。これらの景観は寝屋川市の「歴史街道跡整備事業」として 1992 年から 1996 年にかけて整備され、2009



写真1 N地区

年には「新寝屋川八景」の一つに選定された。各家は敷地奥に主屋があり、門と玄関の間に庭がある。主屋は比較的新しく建てなおされており、アンケートの回答では平成になってからの家が半数を占めていた。回答者の家の建坪は 100～400 m²が多く、400 m²という家も 4 件見られた。調査地区を含む町は統計³によれば世代別人口構成では 40 歳～50 歳が最も多いが、20 歳代以下にも山があり、2～3 世代が同居している家が多いことが窺える。アンケート回答者は 60 歳代が最も多い。

② 駅前タワーマンション2棟

京阪「香里園」駅前の再開発によりできたタワーマンション（以下TMと表記する）2棟を選出した。1棟は2010年建築の37階建て331戸のマンション、もう1棟は2014年建築の25階建て151戸のマンションである。いずれも駅から徒歩2分の商業地区に位置しており1階には店舗が入る。この一帯は寝屋川市



写真2 駅前TM

の景観重点地区として整備されている。建坪は 100 m²以下が多く、アンケート回答者は 40 歳～60 歳代が最も多い。オートロック付きエレベーター、ゲストルーム、ライブラリーなど最新の設備が完備しており、2014 年築の 1 棟はこの年のグッドデザイン賞に選定されている。世代別人口構成では 50 歳～60 歳代が最も多い。

³ 「町別・年齢別(5歳階級)・男女別人口統計表」平成30年3月1日現在 寝屋川市サイトによる2018年3月8日閲覧

③ M公団 17 棟

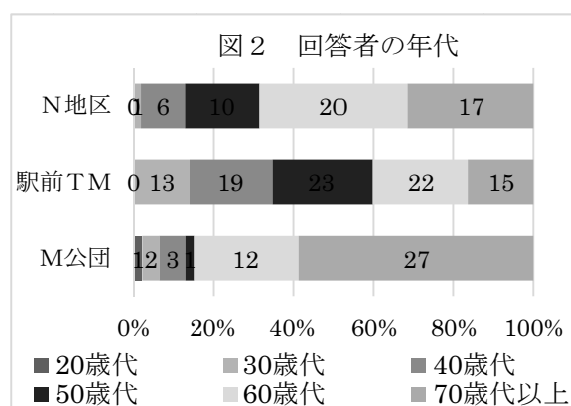
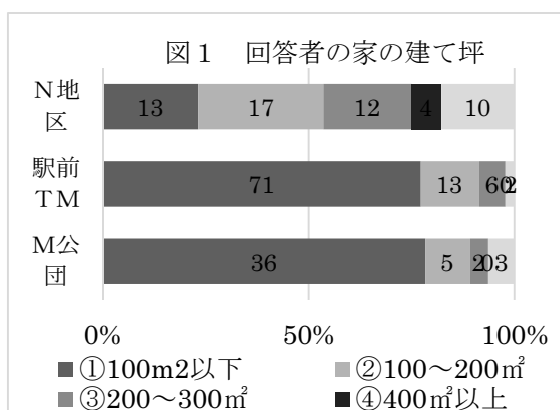
1969年10月～1970年7月にかけて建てられた築48～49年のRC構造4～5階建て、日本住宅公団（当時）供給の集合住宅である。

1棟はおおむね32～40戸ほどで構成される。給水塔やダストシュートなど古い設備があり、エレベーターはない。各戸の広さは2LDK～3LDK、57～64㎡である。アンケート回答者の中には2軒使用している



写真3 M公団

るケースが2例あった。周囲は樹木が育ち、緑が豊かで各棟の間に駐車場が後に作られている。アンケート回答者は70歳代が圧倒的に多く、67.4%が30年以上現在の住宅に居住している。



2. 調査結果

2-1 季節と飾り

(a) 季節で変えるしつらい

日本の家庭で行われる伝統行事は季節と密接に結びついていることが多い。そのためアンケートではまず「季節に応じて模様替えや飾りを変えるかどうか」を問うた。替えるという回答の中では「敷物を替える」家がいずれの地区でも最も多かった。特にN地区では70%にあたる40軒で、次いでM公団では62%にあたる29軒の家で敷物を替えると回答した。駅前TMはフローリングが多数と思われるが30.4%にあたる28軒が敷物を替えていた。「生花」は手軽な行為だが、30.4%にあたる28軒が居住者しか行っていない。また「掛け軸」は床の間のあるN地区に多い。「建具を替える」とは障子・襖を簾戸に入れ替え、畳の上に籐の上敷きを敷く伝統的なしつらいであるが、N地区で11%も実施していた。大変大がかりなしつらいの変更であるが、エアコンの無い時代には風を通して涼を得るための工夫で

あり、夏らしさの演出として行う家もある。

逆に駅前TMでは「なにも替えない・飾らない」人が多く、季節感への関心の薄さが窺われた。自然との距離が影響していると思われる。アンケートでは何の年中行事をしているかを聞いたが、月見など自然に密着した行事はN地区に多かった。

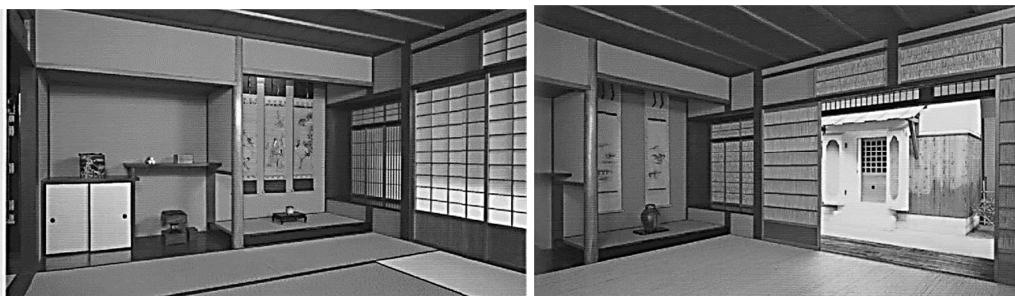
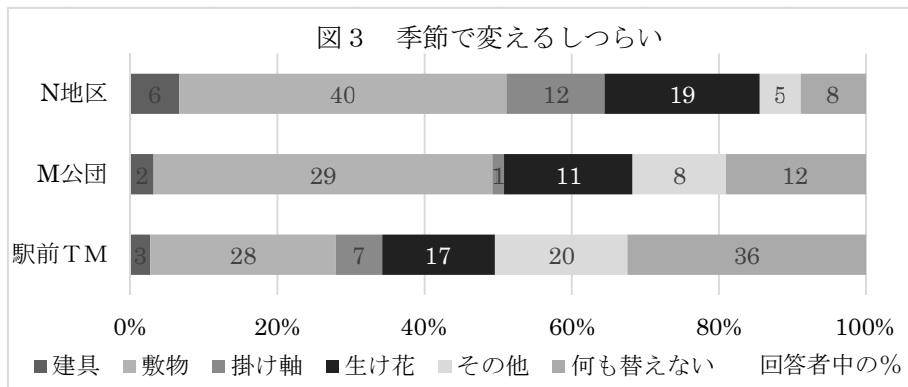
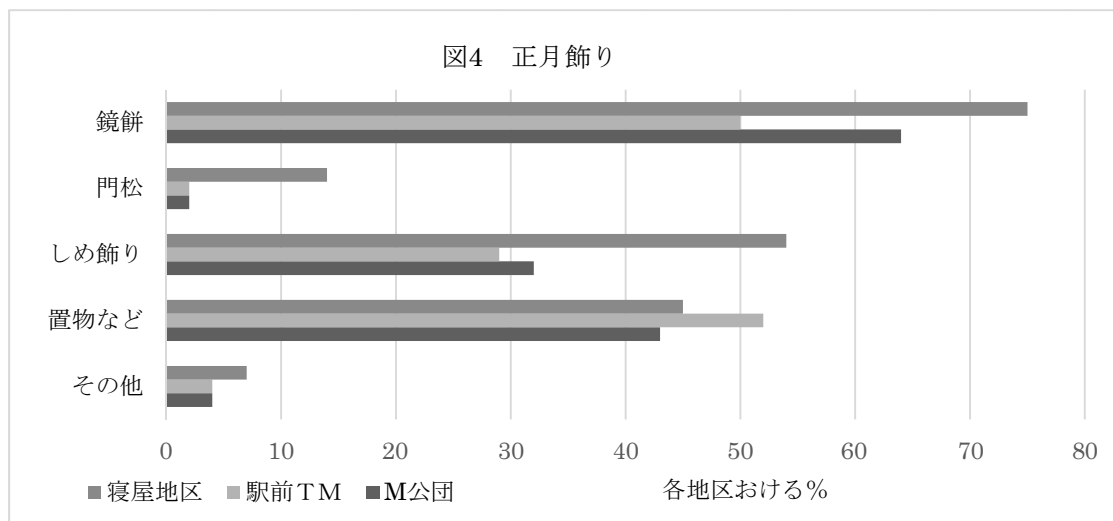


写真4 冬の建具（左）と夏の建具（右）

(b) 正月飾り

正月の飾りはどの地区でも比較的多く飾られているが、特に「鏡餅」、「しめ飾り」、「正月らしい置物」を飾っていると答えた人が多い。中でもN地区は、「鏡餅」「しめ縄」の回答が多い。「門松」はM公団、駅前TMではほとんど飾られていないが、集合住宅であるため、玄関周りに飾る場所がないということもあるだろう。

M公団は「正月らしい置物」を飾っていると言う回答が多く、場所をとらないインテリアで、正月の雰囲気を楽しんでいるものと思われる。

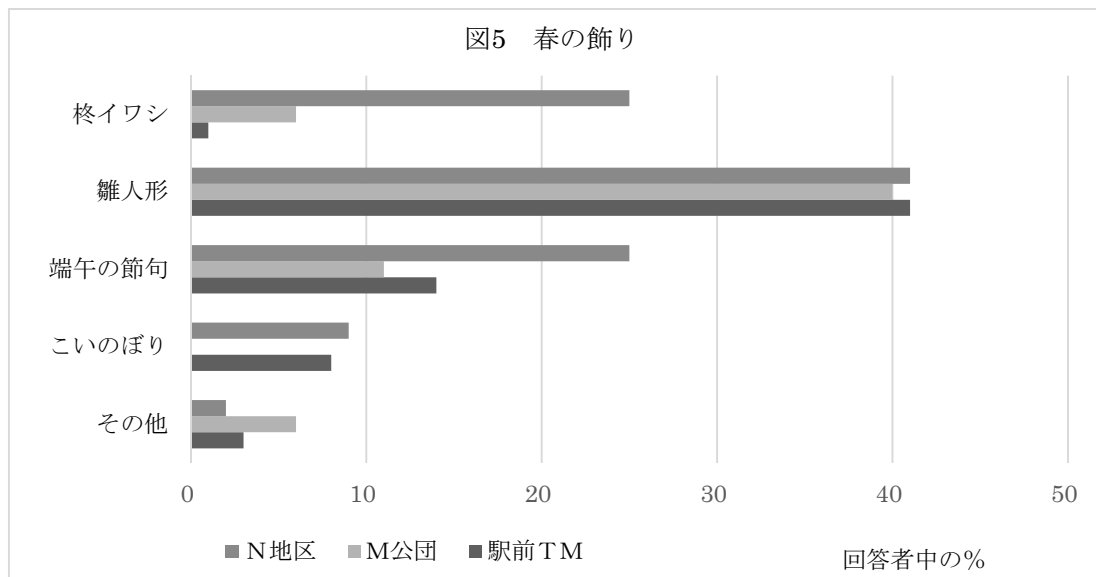


(c) 春のしつらい

春の飾り物としては3地区ともに圧倒的に「雛人形」が多く、4割ほどを占めている。同じ子供の行事であっても「端午の節句」を飾っているという回答は少なく、N地区で25%、M公団と駅前TMは10%ほどである。N地区で他の地区よりも多いのは、飾る余剰スペースがあることによると思われる。

「こいのぼり」はM公団では飾られていない。これは駅前TMでは10%ではあるが飾られているところから、スペースの問題よりは、公団住宅では70歳代が多いという居住者の年代によるものと思われる。

「節分のひいらぎとイワシの頭」を飾るという伝統的な飾り物は町中ではほとんど見かけないが、寝屋では25%もあった。この飾りは生のイワシを用いることから、公団やTMなど集合住宅ではむずかしい。それに対してN地区では各戸が離れていることに加え、各戸に木の門があり、飾りの場所が確保されていることが要因であると考えられる。

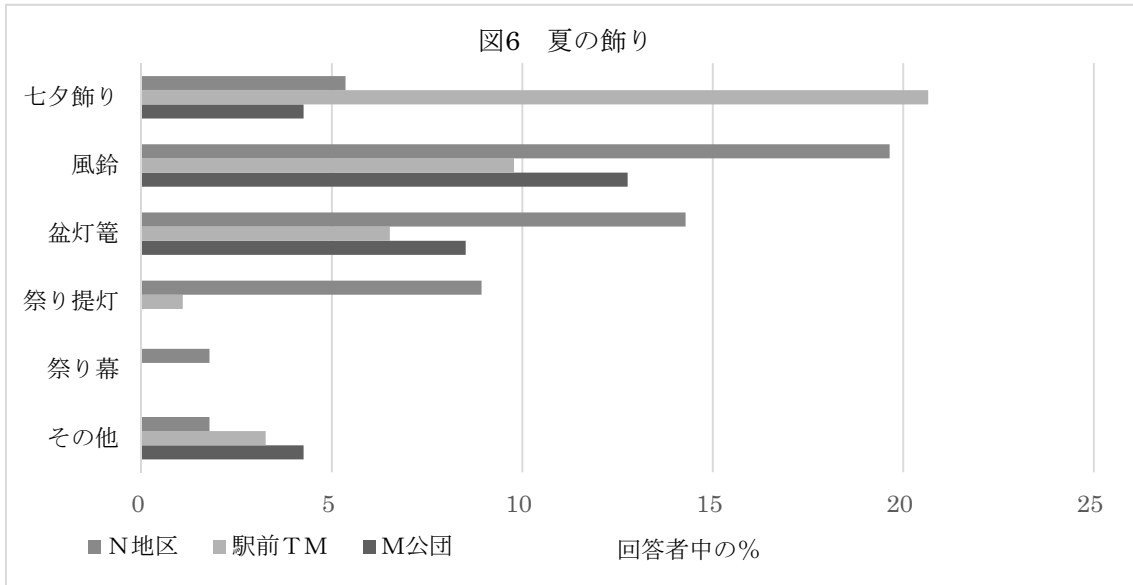


(d) 夏のしつらい

「盆灯籠」はN地区で飾られていることが多い。仏壇をもっていること、大変場所をとるのでそのスペースがあることが前提である。駅前TMは仏壇を所有していない家が多いことも推定できる。

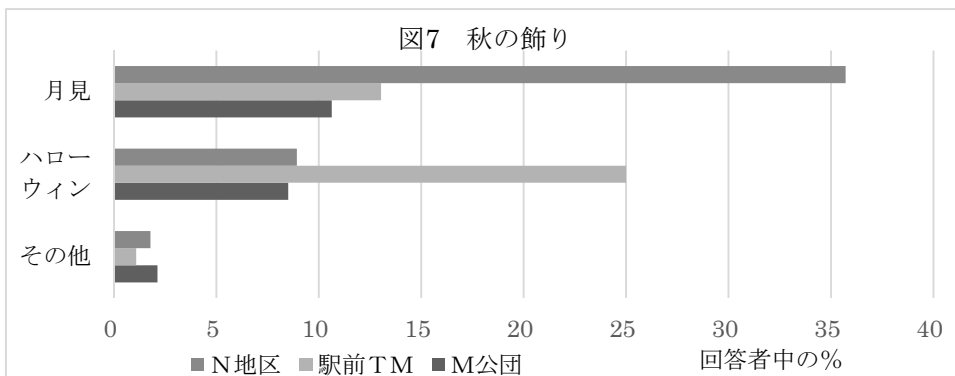
逆に「七夕飾り」は駅前TMが20%を超えて多く、小さい子どもを抱える世帯が多いのかと推察する。「風鈴」はN地区で20%、M公団と駅前TMは1割ほどである。集合住宅では近隣に対する「音」の配慮があり、吊るす人が少ないと思われる。

注目すべきはN地区で「祭り提灯」が9%、「祭りの幔幕」2%の家に見られることで、氏神である寝屋神社の祭礼に参加していることが窺える。



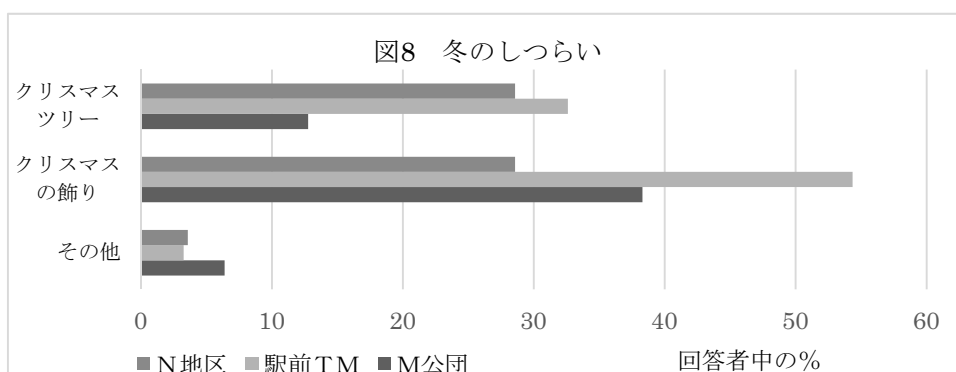
(e) 秋のしつらい

秋の飾りは、居住者の年齢による違いが明らかに出た。駅前TMでは「ハローウィン」の飾りが25%と多く、N地区では「お月見」の飾りを36%が行うと回答している。若い世帯と中後年世帯の生活スタイルの違いがよく出ている結果である。同時にタワーマンションでは月を見るなど自然に関心をもつ機会が少ないことが推測される。



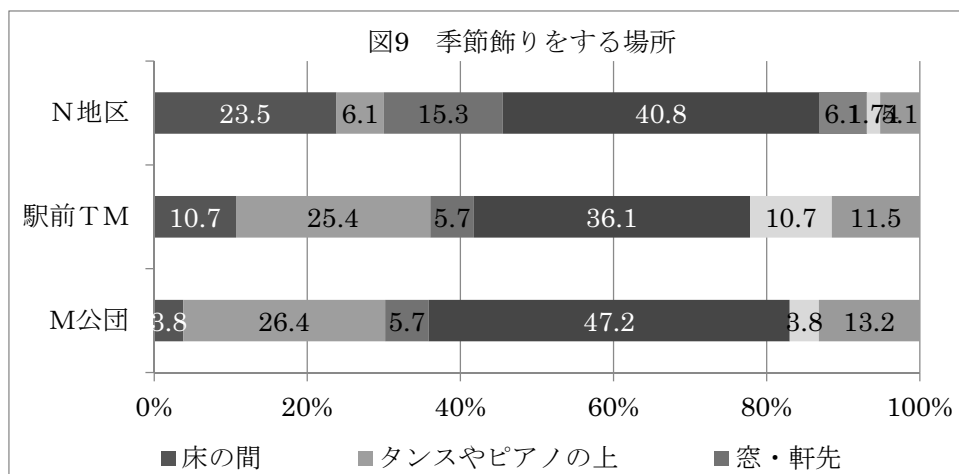
(f) 冬のしつらい

冬の飾り物はクリスマスの飾りであるが、駅前TMが圧倒的に多く54%である。「クリスマスツリー」となると少し減るが、それでも駅前TM、N地区では3割ほどが飾っている。



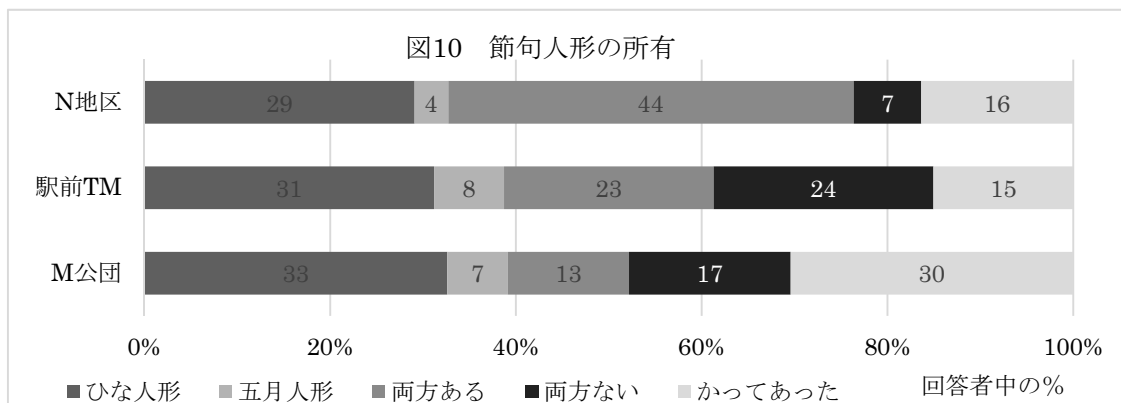
(g) 季節飾りをする場所

季節飾りをする場所は3地区とも「玄関周り」が多く、次いでN地区では「床の間」、M公団や駅前TMでは「ダンスやピアノの上」が3割ほどもある。これは、住宅の部屋の造りによるものではないかと思われる興味深い結果が出た。



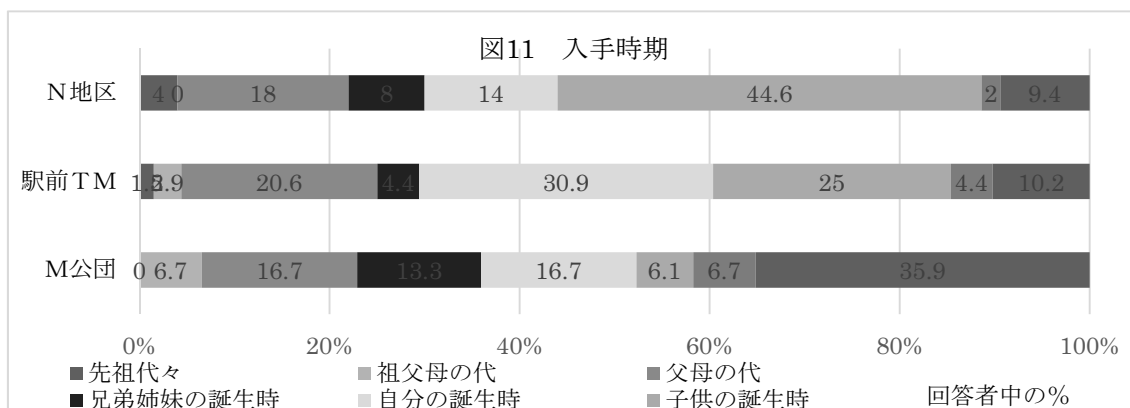
(h) 節句人形の所有

季節の飾りの中でもとくに場所をとる「雛人形」と「五月人形」の所有状況を尋ねた。顕著な違いとして、「雛人形」と「五月人形」の両方を所有する人が、N地区では44%もあるのに対し、駅前TMでは23%、M公団では13%と、居住面積が少なくなるにつれて減少した。しかし「雛人形」のみを見ると3地区とも30%ほどの人が所有しており、ほとんど変わらない。「雛人形」がとくに残される傾向があることが分かった。年齢の高いM公団は「かつてはあった」という回答が30%と多く、住宅面積や収納空間の関係で手放さざるを得なかったのではないかと推察する。



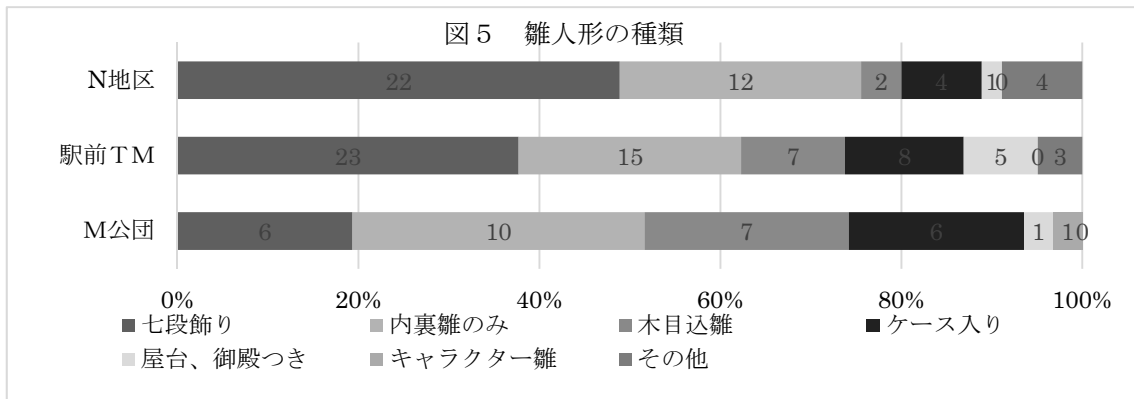
(i) 入手時期

「先祖代々」という回答はN地区に4%いたのが最も多かった。しかし「(自分の)子供が誕生した時」と答えた人も、N地区には他の地区を上回る44.6%もいた。余剰空間の存在が、古いものを伝える一方で、新たな購入にも結びついていることを窺わせる。



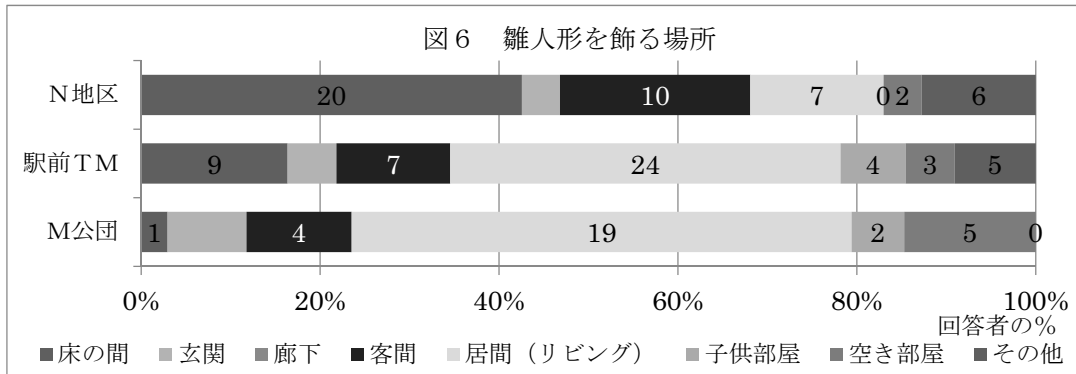
(j) 雛人形の種類

内裏雛から道具類までを飾る「七段飾り」の雛は、幅1m、奥行き1.5mほどを要する。N地区では半数がこのタイプの飾りを所有しているのに対し、駅前TMは32%、M公団では19%と居住面積に比例して少なくなっている。逆に小型の「木目込み雛」と幅50cm、奥行き50cm以内程度ですむ「ケース入り雛」が、M公団、駅前TM、N地区の順に多く、七段飾りとまったく逆の結果になった。ちなみに「内裏雛のみ」のみという家は三地区とも変わりがなく、その中には七段飾りの内裏雛のみを飾っているというケースが2件あった。七段飾りを設置する手間やスペース確保の困難さから、飾り方を変更して継続していることが窺える。



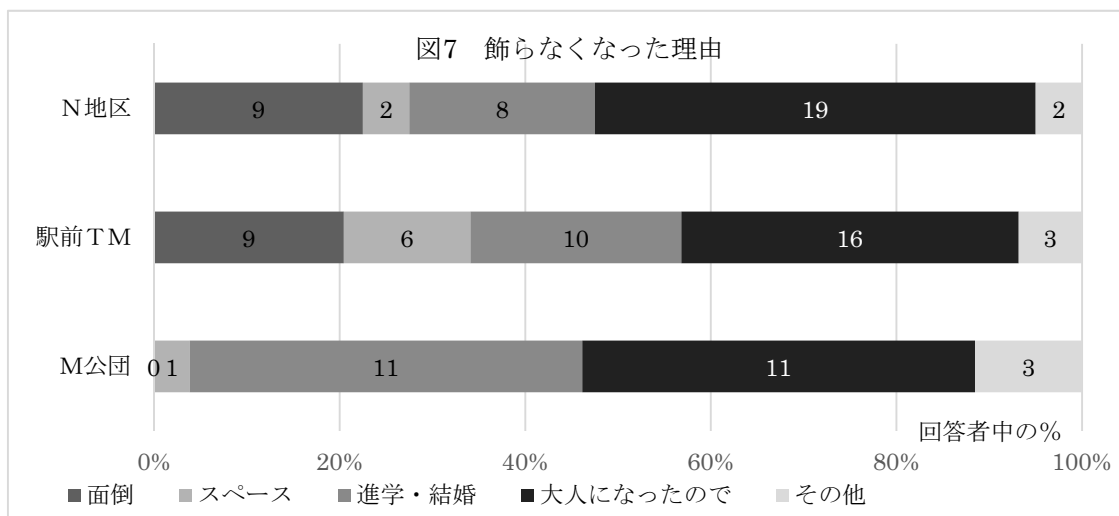
(k) 節句人形を飾る場所

飾る場所はN地区では床の間が43%、ついで「客間」が21%であった。N地区の住宅には「床の間」や「客間」のように格式ばった空間があること、雛飾りが家の行事として考えられており、それにふさわしい場所とされていることが分かる。一方、M公団は56%、駅前TMが44%と半数近くが「居間（リビング）」に飾っている。これは集合住宅ではリビングが一番大きい部屋であることが多く、設置する空間を確保しやすいためと考えられる。また駅前TMでは子供部屋に飾る割合が他より多かった。理由として子供が幼く子供部屋に余裕があること、雛祭りを家の行事ではなく子供の祭りとして捉えている人が多いことを窺わせる。



(1) 飾らなくなった理由

雛人形を持っているにも関わらず飾らない人たちにその理由を聞くと、3地区とも「大人になった」ことが主な理由だと答えている。M公団は居住者の年齢の高さから「進学・結婚で子供が家を出て行った」という回答がとくに多い。一方N地区と駅前TMは「面倒」「スペースがない」という回答が多く、子供がいるにも関わらず出していないことを窺わせる。何歳まで飾ったかを問うたところ、平均で13.4歳となり、中学に入った頃から飾らなくなることが窺えた。

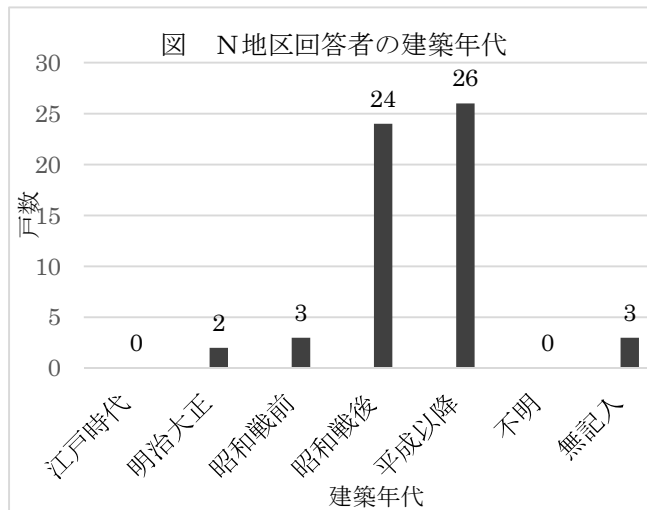


(m) 行事の必要性

「ひな祭り」という行事については「必要」という人がN地区で7割、M公団、駅前TMでは8割近くがそう答えている。「分からない」人は2割であり、「不要」は数%と少なかった。昔からの伝統的行事を残していきたいと考える人が多いにもかかわらず、雛人形を持っていても飾る人は4割にすぎない。スペースの制約や面倒さにより、自分自身ではなかなか飾ることができないと考えられる。

3. 分析

調査ではこれ以外にも季節の行事や居住環境について細かくアンケートをとった。その結果、調査した3地区は伝統行事の実施状況やしつらいに差があることが明らかになった。これらの差は家だけでなく、居住者の年代や経済力とも緩やかに関係している。当初の研究の目的に対し、次の結論を得た。



3-1 N地区

N地区では夏冬で建具を入れ替えたり、鏡餅、節句飾り、盆提灯、月見など季節に応じた伝統行事のしつらいが多くを行なわれていた。また雛人形は七段飾りの本格的なものを有していた。N地区では多くの家に床の間があり、季節の掛け軸をかけ、桃の節句には雛人形を飾る場として利用されている。床の間はしつらいの占有空間であり、他の用途に使いにくい。床の間は客間として使われる部屋に多く設置され、普段の生活空間からは隔た

りがある。まさに節句など特別な日に象徴物を飾るのにふさわしいハレの空間とみなされていることが分かる。

またN地区ではしめ飾り、ヒイラギイワシ、祭り幔幕、祭り提灯など、外に向けた飾りも行われていた。これは多くの家に大きな木の門があり、外向けの飾りの占有空間となっているためと考えられる。門はその家の顔ともいえるが、他家と同様にするとという心理が働き、結果的に地域全体で伝統的な飾りが残っているのであろう。とくに祭り幔幕、祭り提灯が健在であることから、祭りが地区の結びつきの要因になっていることが分かる。

3-2 駅前TM

TMに住む50歳代はまだ子供が同居しているケースが多く、子供の行事は比較的行っている。また月見をしていると家が皆無であるように、高層ビルである駅前TMは外界と切り離され、季節の変化や自然を感じる事が難しいと思われる。しかし子供が幼稚園や学校で作ってくる絵画や飾りなどをきっかけに七夕の飾りをしている。またクリスマスはすでに日本に定着した季節行事といえるが、クリスマスツリーやクリスマスの飾りに関しては他の2地区よりも圧倒的に多くの家で取り入れていた。また近年急速に広がったハロウィンの飾りも、他の2地区ではあまり見られないが、この地区では多くの家で取り入れていた。クリスマスやハロウィンを外国の洒落たイベントとして楽しんでいる。

雛人形は子供部屋に飾るケースが多く、家の行事ではなく子供のイベントとして捉えている様子が窺えた。

飾る場所は公団同様、リビングが多いが「その他」と答えた家も多い。その内容としては「壁」が多く、ついで「サイドボード」「テレビの上」など床面積をとらないものが見られた。一方、外に向けた飾りというものはほぼしかしマンションのネットによる掲示板には「ベランダにこいのぼりを掛けている家がある。落ちたらどうするのか。」「ベランダの使い方を管理人が注意してほしい。」という投稿もあり、ベランダを自由に使用することはできない。

3-3 M公団

M公団は築48-49年で、居住する回答者の58.7%が70歳代で、67.4%が30年以上住んでいる。30~40年前には30~40代の働き盛りで子供も成長期であったが、現在ではその多くが老人世帯として残されている。それにも関わらず、雛人形か端午の節句飾りをもっているという家が53%、半数以上あり、子供が家を離れても、残して所有しているケースが多いことが分かる。それほど愛着もあり、伝統行事にも関心を持ち続けていると思われる。

4. 結論

今回、調査した3地区は伝統行事の実施状況やしつらいに差があることが明らかになった。これらの差は家だけでなく、居住者の年代や経済力とも緩やかに関係している。当初

の研究の目的に対し、次の結論を得た。

① 伝統的な行事の現状

(a) N地区

ここでは多くの家で季節により模様替えや、季節に応じたしつらいを行っていた。一戸建てで自然が身近であること、多くの家に「床の間」があり、飾り占有の空間として機能していることが背景にある。また家の顔である「門」の存在も飾りの場として役割を果たしていた。家のハレの空間である「床の間」、外に示す「門」のしつらいは、行事が家として行われていることを表しているといえよう。

(b) 駅前TM

高層ビルである駅前TMは自然と触れ合う機会が少なく、季節感が乏しい。住民は他地区より若く、日本の伝統行事は低調で、クリスマスやハロウィンなどを外国の洒落たイベントとして楽しんでいた。雛人形は子供部屋に飾るケースが多く、家の行事ではなく子供のイベントとして捉えている様子が窺えた。また床面積をとらない窓・サイドボードなど新しい飾りの場が工夫されていた。

(c) M公団

30年以上住んでいる70歳代が多く、子供はすでに独立していると思われる。雛人形・五月人形は所有していたが手放した、という割合が最も多かった。半面、雛人形を持っている割合も最も多く、五月人形よりも雛人形は手放しにくいことを思わせた。この世代は子供時代に伝統行事を体験しており、伝統行事は必要だという答えの割合が最も多かった。

② 必要な「場」は何か

最も伝統行事を行っていたN地区では床の間、門、玄関が重要なしつらいの場となっている。またこいのぼりを庭に出すという家もあった。しつらいの専用空間や余剰空間が重要な要素であるのは間違いない。しかし雛人形を所有している人の中で毎年飾る人の割合は、駅前TMが最も多かった。子育て世代は子供の成長を感じるイベントと捉えており、家族が常時目にするリビングが利用されている。しかしベランダにこいのぼりを出すことは規制され、あくまで家族だけの行事・家の中でのしつらいに変化しているのである。居住環境を選択した時に、家族における年中行事の意味や方法が決まるといえよう。

伝統行事や季節のしつらいの継続には占有空間の存在が重要な意味をもつということである。行事は非日常であり、日常生活とは異なる場が必要である。普段は使用していない客間や、しつらいのみに用いられる床の間などがあれば、ハレの空間として活用できる。しかしスペースがあるにも関わらず、N地区やM公団で雛人形を飾らない家も多く、その理由として「面倒」という回答がもっとも多かった。大がかりな七段飾りを押し入れや物置などの収納場所から取り出し、段を組み立て、人形を並べるということは大変時間と手間のかかる仕事である。老人世帯ではその体力や気力がない。雛飾りをはじめとする伝統

行事の衰退には居住環境だけでなく老人の独居など社会的な問題をはらんでいると考えられる。

③ 今後のあり方

この調査の過程で明らかになった年中行事の衰退や老人世帯の増加は全国的な傾向であり、特に地方で先行している。若者が進学などで都会に出たまま結婚・就職して戻らないため、地方の親の家には飾られなくなった雛人形が多く残される。それらを活用したのが、近年盛んに行われている地域おこしの「雛巡り」である。かつて各家の行事であった雛祭りを、地域全体で行うようになったのである。

しかしいまや都会においても老人世帯が増加し、伝統行事が衰退しつつある。今後、家庭で行われてきた伝統行事は、地域共同で行ったり、博物館など公共施設で行うといった新しい伝承法を考える必要があるだろう

近年地方都市で地域おこしの雛巡りなどのイベントが増えているのは、こうした社会背景に基づいている。地方都市では大学進学を機に子供が家を出て都会暮らしをすることがしばしばある。進学先で就職、結婚をしてそのまま都会で住宅を入手して家族を構成する。地方の親元には雛人形などが残されて、老人世帯ではそれらを飾ることができない。

雛人形・五月人形は子育てをした記念でもあり捨てるに忍びない。そこで地方で飾られない人形を集めた地域おこしのイベントとして「雛巡り」などが盛んになっている。家に伝えられた伝統行事を、地域で行うという役割がこのイベントひな祭りにはあり、現在全国的に増加している。

さらに地域のつながりのない都会においても、独居などにより伝統行事が衰退しつつある現状を考えると、伝統行事を伝えていく場として博物館が新たな場として考えられる。博物館など新たな伝統行事の担い手を考える時代になっているといえよう。



写真1 地域の町おこしのひな祭り

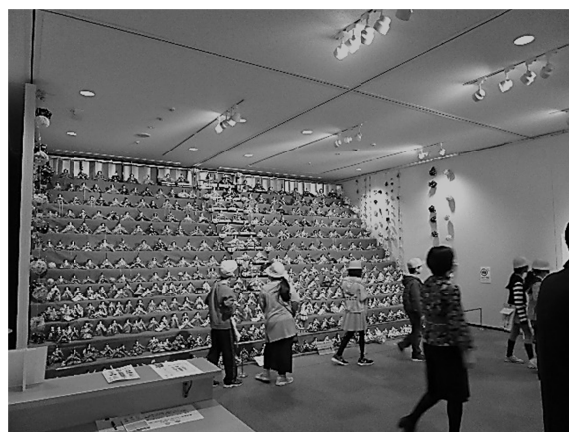


写真2 大阪くらしの今昔館のひな祭り

付属資料 アンケート調査の質問項目は以下の通りである。

<伝統行事と家の飾りに関するアンケート>

- 1 あなたの家では季節に応じて模様替えや飾りを変えますか。(複数回答可)
① 夏冬で建具を変える ② 夏冬で敷物を変える
③ 季節に応じて床の間の掛け軸を変える ④ 季節に応じた生け花を飾る
⑤ その他 () ⑥ とくに何も替えない、飾らない

 - 2 あなたの家では季節や行事に応じて特別な飾りをしていますか。飾るものに○をつけてください。(複数回答可)
正月① 鏡餅 ② 門松 ③ しめ縄 ④ 正月らしい置物など ⑤ その他 ()
春 ① 節分のヒイラギとイワシの頭 ② ひな人形
③ 端午の節句人形(かぶと・よろいを含む) ④ こいのぼり ⑤ その他 ()
夏 ① 七夕飾り ② 風鈴 ③ 盆灯籠 ④ 祭り提灯 ⑤ 祭りのまん幕
⑥ その他 ()
秋 ① 月見 ② ハローウィンの飾り ③ その他 ()
冬 ① クリスマスツリー ② クリスマスの飾り ③ その他 ()

 - 3 季節の飾りをする場所を教えてください。
① 床の間 ② タンスやピアノの上 ③ 窓・軒先 ④ 玄関 ⑤ 庭
⑥ その他 ()

 - 4 「ひな人形」または「端午の節句の飾り」を持っていますか。
① ひな人形を持っている。 ② 端午の節句飾りを持っている ③ 両方持っている
④ どちらも持っていない ⑤ かつてあったが今はない
理由 ()
- 前問4で「①～③ 持っている」と答えた方は、以下の質問にお答えください。
- 5 その人形は、現在どちらにありますか。
① 自宅にある ② 実家・祖父母宅になど自宅以外のところにある
③ その他 ()

 - 6 入手時期はいつですか。あてはまるものに○をつけてください。
① 先祖代々 ② 祖父母の代 ③ 父母の代 ④ 兄弟姉妹の誕生時
⑤ 自分の誕生時 ⑥ わからない ⑦ その他 ()

 - 7 それらの人形は、現在も飾っていますか。あてはまるものに○をつけてください。
① 飾っていない ② 毎年飾る ③ 2～3年に一度 ④ 不定期 ⑤ 出しっ放し
⑥ 飾り方を変えた(例:お内裏様のみ飾る))
⑦ その他 ()

 - 8 お持ちの「ひな人形」の特徴を教えてください。(複数回答可)
① 七段飾り ② 内裏びな(男びな・女びなのみのもの) ③ 木目込びな
④ ケース入り(3段くらい) ⑤ 屋台、御殿つき ⑥ キャラクター人形ひな(キティちゃんなど)
⑦ その他 ()

 - 9 ひな人形はどこに飾りますか? または飾っていましたか?(複数回答可)
① 床の間 ② 玄関 ③ 廊下 ④ 客間 ⑤ 居間(リビング) ⑥ 子供部屋
⑦ あき部屋 ⑧ その他 ()

 - 10 飾らなくなった方は、その理由を教えてください。(複数回答可)

- ① 面倒 ② スペースがない ③ 進学・結婚などで現在家に女の子・男の子がいない
- ④ 大人になったので [何才頃までは飾っていましたか?⇒ () 才頃まで]
- ⑤ その他 ()

11 全員の方におたずねします。「ひな祭り」などの季節の行事や飾りは必要だと思いますか?
・必要 ・不要 ・分からない
必要または不要な理由 ()

12 今はしていないが子供の頃にしていた年中行事の飾りがあれば教えてください。
()

.....
■最後に今お住まいの家について教えてください。

13 あなたの家の建築年代を教えてください。
① 江戸時代 ② 明治～大正時代 ③ 昭和戦前 ④ 昭和戦後 ⑤ 平成以降
⑥ わからない

14 あなたの家の建坪(住宅面積)を教えてください。
① 100 m²以下 ② 100～200 m² ③ 200～400 m² ④ 400 m²以上

15 部屋数は何室ありますか。(トイレ、風呂、台所、物置を除く) () 室

16 家には何人で住んでいますか。 () 人

17 あなたの家族はその家に何年住んでいますか。
① 10年以内 ② 10年～20年 ③ 30年以上 ④ 先祖代々住んでいる。
⑤ わからない

■お答えいただいたあなたの性別、年代について下記からお選びください。

18 性別 ・男性 ・女性
19 年代 ・10代 ・20代 ・30代 ・40代 ・50代 ・60代 ・70代～

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。